



写真1

花鳥山遺跡から出土した土器で特徴的なものは写真1のような渦を巻いた目玉の様な模様の土器です。この文様は前期後半である諸磯^{もろいそ}c式期の土器に施された渦巻状結節浮線文^{うずまきじょうけつせつ ふせんもん}という文様です。細い粘土紐を半截^{はんさい}竹管^{ちくかん}（細い竹を半分に割ったもの）の内側で押し引きすることで施されたものであり、山梨・長野を中心とする地域から出土します。

この文様は最初から目玉のような形であった訳ではありません。写真2は円が一つであり、結節浮線文^{けつせつ ふせんもん}が一筆描き状に渦を巻いています。おそらくこれが渦巻状結節浮線文^{うずまきじょうけつせつ ふせんもん}の最も古い形態と考えられます。

下図中央の「天神遺跡出土深鉢形土器イラスト」は左側の土器の文様をイラストで解説したものです。渦巻状結節浮線文^{うずまきじょうけつせつ ふせんもん}という文様は中心から渦を巻くように巡らせる文様です。一方で、土器の形は縁が山形になる



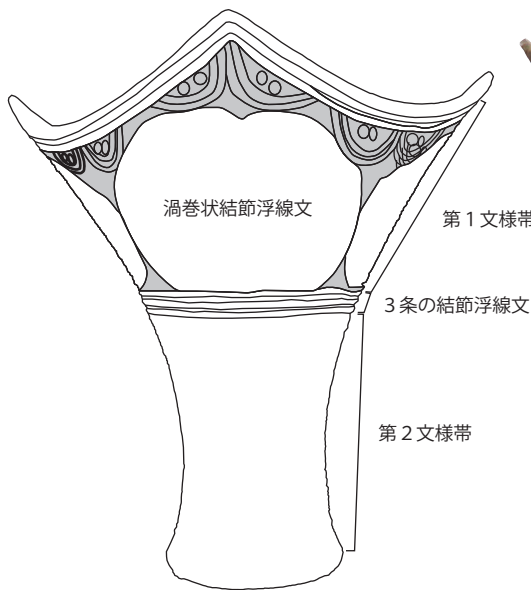
写真2

波状口縁^{はじょうこうえん}という形をとります。このため、イラスト中の灰色の範囲は言わば余白の様な部分になってしまいます。ところが、天神遺跡出土深鉢形土器は2条の結節浮線文^{けつせつ ふせんもん}と1対のボタン状貼付文^{てんぶもん}を決まり事の様に余白に配置しており、文様の配置が整理された状態となっています。

これに対し、右側の花鳥山遺跡出土深鉢形土器の余白部分は渦を巻いていたり、線が巡らされたりと一定ではありません。この違いは時間差を示しており、天神遺跡出土深鉢形土器の方がより新しい段階のものと位置づけられます。



天神遺跡出土深鉢形土器



天神遺跡出土深鉢形土器文様イラスト



花鳥山遺跡出土深鉢形土器